

[国宝]

太刀 銘 国宗

照国神社蔵
黎明館受託



法量 刃長=81.4cm 反り=2.7cm 元幅=3.3cm
先幅=2.0cm

形状 縞(しのぎ)造り，庵棟，中鋒(ちゅうきっさき)，身幅ひろく腰反りがつく。

鍛え 板目肌よくつみ，地沸(じにえ)つき，乱れ映り立つ。

刃文 丁子(ちょうじ)に小丁子，蛙子(かわずこ)丁子が交じり，小足・葉入り，表の物打あたりに飛焼が見られる。なお，佩表(はきおもて)の中程には長く白染ごころがある。

帽子 乱れこんで先は少し尖りごころにかえる。

茎 先は一文字に切り，鑢目(やすりめ)勝手下り，目釘孔二つ。銘は棟寄りに「国宗」と細鑿(ほそたがね)で切る。

鎌倉時代(13世紀) 昭和39年5月指定

国宗は備前国の刀工で，同国の一文字派や長船派と系統を異にする直宗派である。同銘が二代ないし三代にわたっているので，その作刀期間は鎌倉時代中期から末期にかけている。初代国宗は備前三郎と称し，後に京の栗田口派の刀工国綱と共に鎌倉幕府に召されて鎌倉鍛冶の開拓者の一人となったが，その作風は備前伝に終始して得意の華やかな丁子刃を焼いた。この太刀は身幅広く，腰反り高い踏張りのある堂々とした姿に，鎌倉時代中期の特色がある。

島津家に伝来し，昭和2年6月，島津忠重が先祖忠久の700年祭にあたって照国神社に奉納したものである。

この太刀は，戦後アメリカに渡り，一時行方を失っていたが，アメリカ人愛刀家W・A・コンプトン氏の入手するところとなり，昭和38年日本に返還され，東京国立博物館に保管されていた。

なお，この太刀は鹿児島県の文化財で，唯一国宝に指定されているものである。